

南砺市エコビレッジ構想 概要版

序. はじめに

1. 南砺市エコビレッジ構想
2. 桜ヶ池エコビレッジモデルの展開

平成 25 年 3 月
南 砺 市

序. はじめに

南砺市エコビレッジ構想の背景と意義

【背景】

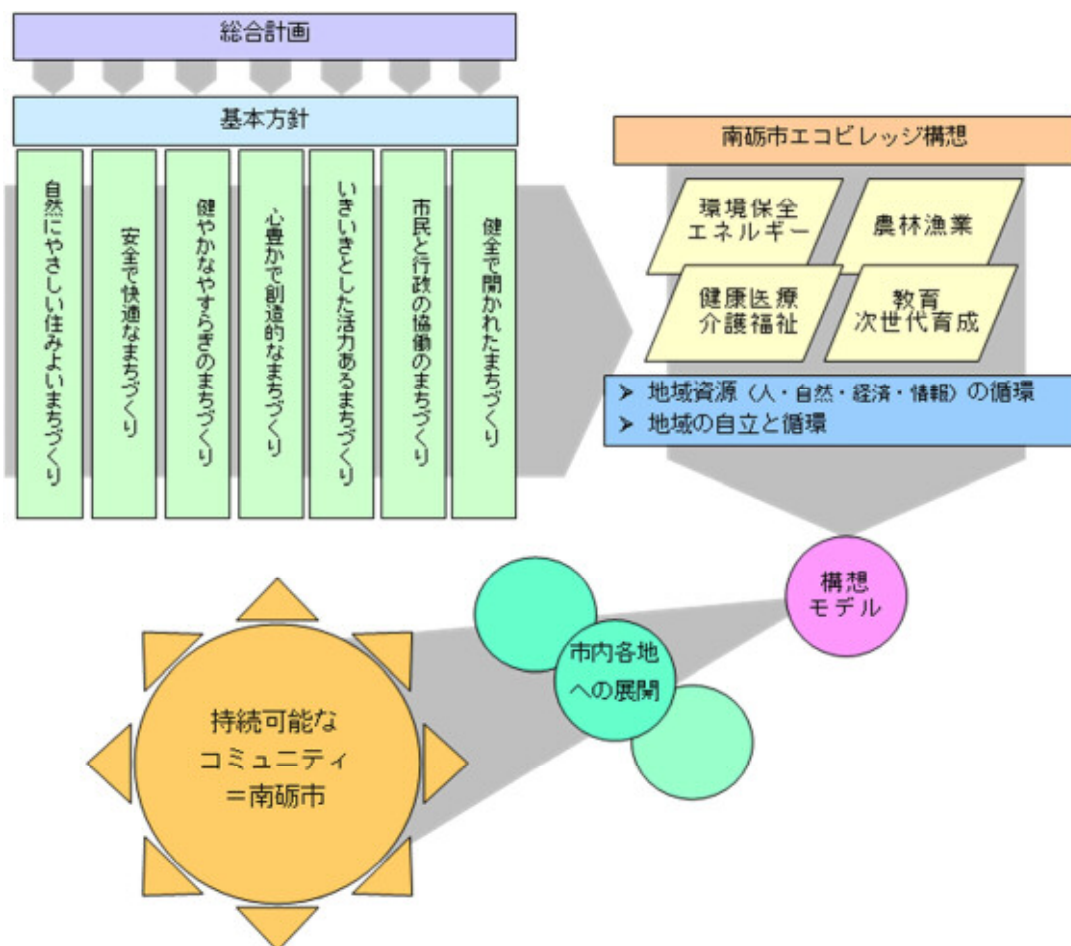
2008年に起こったリーマンショックでは、それまでの成長と効率を重視する経済優先の社会の不安定さが明確になりました。さらに、2011年3月の東日本大震災と原子力発電所の事故では、多くの方々の犠牲と今も続く避難と再生への努力から、いのちの尊さと豊かな人間関係の重要性を学びました。

南砺市では今後、人口の減少や高齢者世帯の増加、そして温暖化や気候変動等、様々な変化が予測されています。その中で、人と人、そして人と自然の関係を改めて問い直し、目に見えない豊かさが実感できる地域を、「新しい暮らし方」でどうデザインしていくかが問われています。

市では、「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」の4つの分野が相互に連携・連動しながら、地域の自立と循環を図ることが重要だと考えています。そのためには、まずは思いを共有するビジョン（構想）を描き、その実現に向けた取り組みの輪を広げていくことが必要です。その第一歩として市では、次代を担う子どもたちが安心して、そして地域に誇りを持ちながら暮らし続けていくための「エコビレッジ構想」の策定に着手しました。

【位置づけ】

南砺市エコビレッジ構想（以下、「本構想」）は、総合計画に基づく諸施策とともに、南砺市と市民の協働によって、地域資源（人・自然・経済・情報）の「循環」による地域の「自立」を新たな視点とする総合的な地域づくりのあり方を示すものです

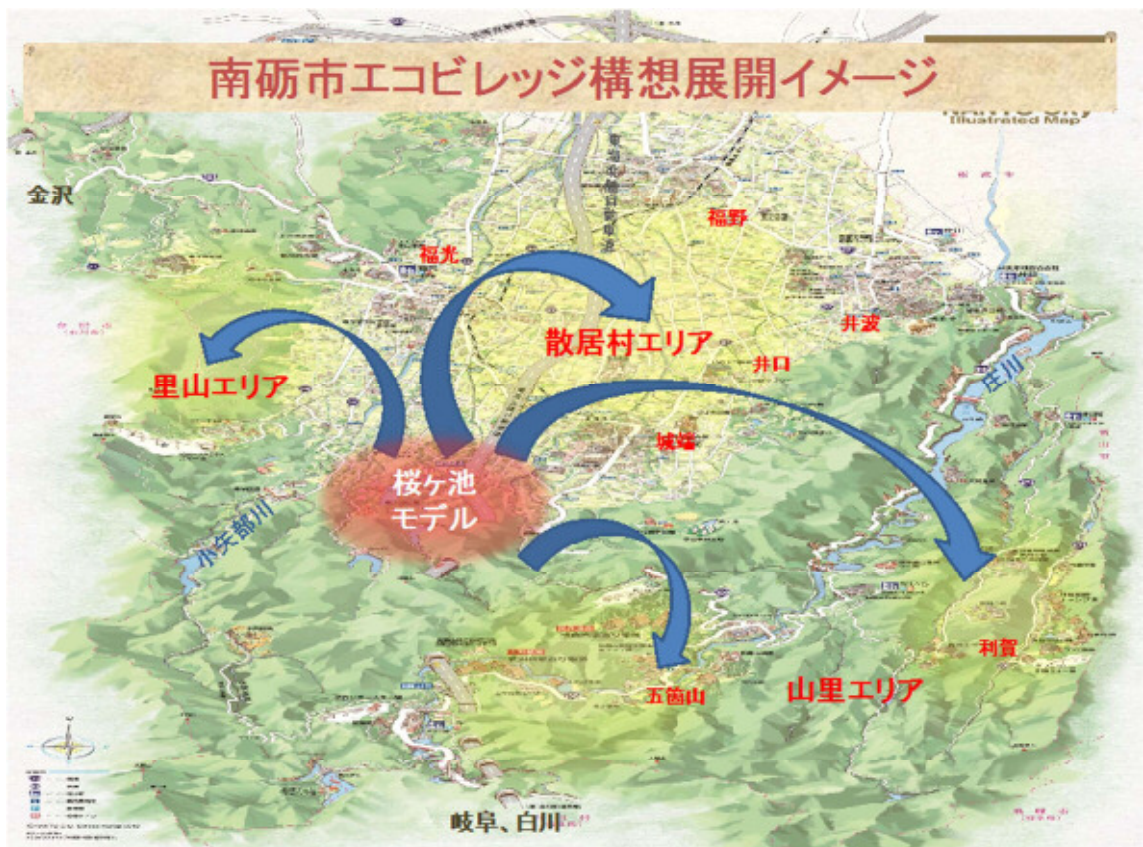


【意義】

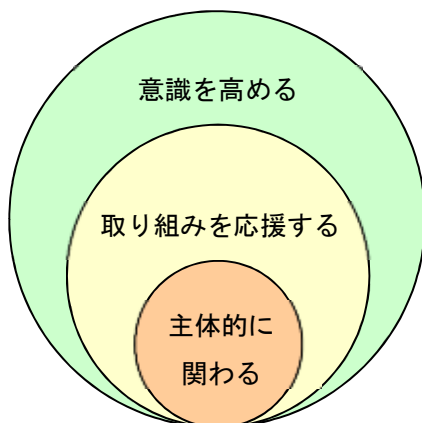
本市では、南砺市総合計画後期基本計画（H24～H28）において、「誇り」「元気」「共生」の視点で重点施策を選定しており、「エコビレッジ構想の推進」もその一つと位置づけています。

本構想は、エコビレッジにおける地域づくりの基本的な考え方やその実現に向けた取り組みを示すものです。まずは、取り組みのモデル（桜ヶ池エコビレッジモデル、後述）を創り出し、さらには、市内各地へとそれぞれの地域特性に応じたエコビレッジの展開を図ります。そして将来は、市全体が新たな暮らし方を実現する、全国に先駆けた地域となることを目指しています。

なお、本構想は、2012年9月末から6ヶ月間、概ね月1回の頻度で開催した「エコビレッジ志民会議」（以下、「志民会議」）の議論により多くを構成しています。



■ 志民の構想への関わり方 ■



本構想では、エコビレッジ構想の趣旨に賛同し、多様な関わり方でその実現に参画する市内外の人々を「志民」と呼んでいます。

「志」を持つ「民」ひとり一人が主役となり、取り組みの輪を広げながら、自立した小さな循環を創り上げることにより、協働のまちづくりや地域内分権の推進にもつながっていきます。

1. 南砺市エコビレッジ構想

基本的な考え方

【総合計画の将来都市像】

さきがけて 緑の里から 世界へ



【基本理念】

小さな循環による地域デザイン

ここに挙げる理念は、総合計画に掲げる将来都市像「さきがけて 緑の里から 世界へ」の精神を踏まえ、子や孫、そして幾世代も繋がるエコビレッジを具現化するためのものです。

総合計画の施策展開にあたっては、「誇り（安心・定住）」、「元気（産業・子育て・人づくり）」、「共生（協働・環境）」のキーワードで将来を展望しており、本構想においてもこうした視点も共有しつつ施策を推進します。

本構想の大切な視点は、自然と共生し、地域資源を最大限に活用しながら、次の世代へのちを繋いでいくことにあります。

エコビレッジでは、様々な小さな循環が相互に連動し、支え合いながら自立するコミュニティをデザインしていきます。

【基本方針】

- (1) 再生可能エネルギーの利活用による地域内エネルギーの自給と技術の育成
- (2) 農林業の再生と商工観光業との連携
- (3) 健康医療・介護福祉の充実と連携
- (4) 未来を創る教育・次世代の育成
- (5) ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスによるエコビレッジ事業の推進
- (6) 森や里山の活用と懐かしい暮らし方の再評価による集落の活性化

基本方針は、エコビレッジ構想を推進する上での柱で、総合計画の重点施策と連動しています。

2. 桜ヶ池エコビレッジモデルの展開

【桜ヶ池エリアにおける事業展開の論点】

- ①コンパクトなエリアで多様な再生可能エネルギーの活用が期待できます。
- ②東海北陸自動車道の城端SAなど、自動車交通の要所であり、南砺の産業創出と再生、観光の玄関口としてさらなる機能集積が期待できます。
- ③山と里の交わる美しい自然環境を活かし、景観的にもさらに魅力ある環境づくりが期待されます。
- ④自立と連携からなるコミュニティ単位として、自治組織や事業所、営農組織など、多様な担い手の取り組みとのさらなる協働関係の強化が期待されます。



【桜ヶ池エコビレッジ宣言】

桜ヶ池の造成は、山田川流域の人々の悲願でした。幾多の困難を、先人の英知と努力をもって乗り越え、成し遂げられたその功績は、今も地域の暮らしを潤し続けています。

我々は、先人から授かったこの暮らしと精神風土（土徳）を、孫子へと引き継いでいく責務があります。桜ヶ池の自然や文化を守り育て、ここで暮らすことを誇りに思える地域をつくります。

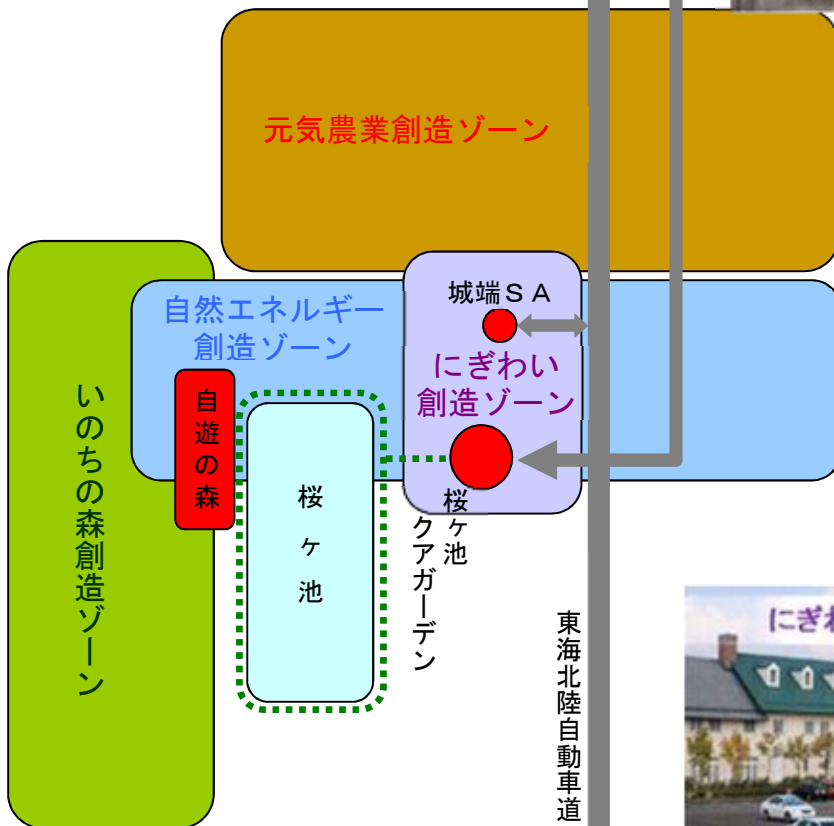
【ゾーニング】

1. 自然エネルギー創造ゾーン

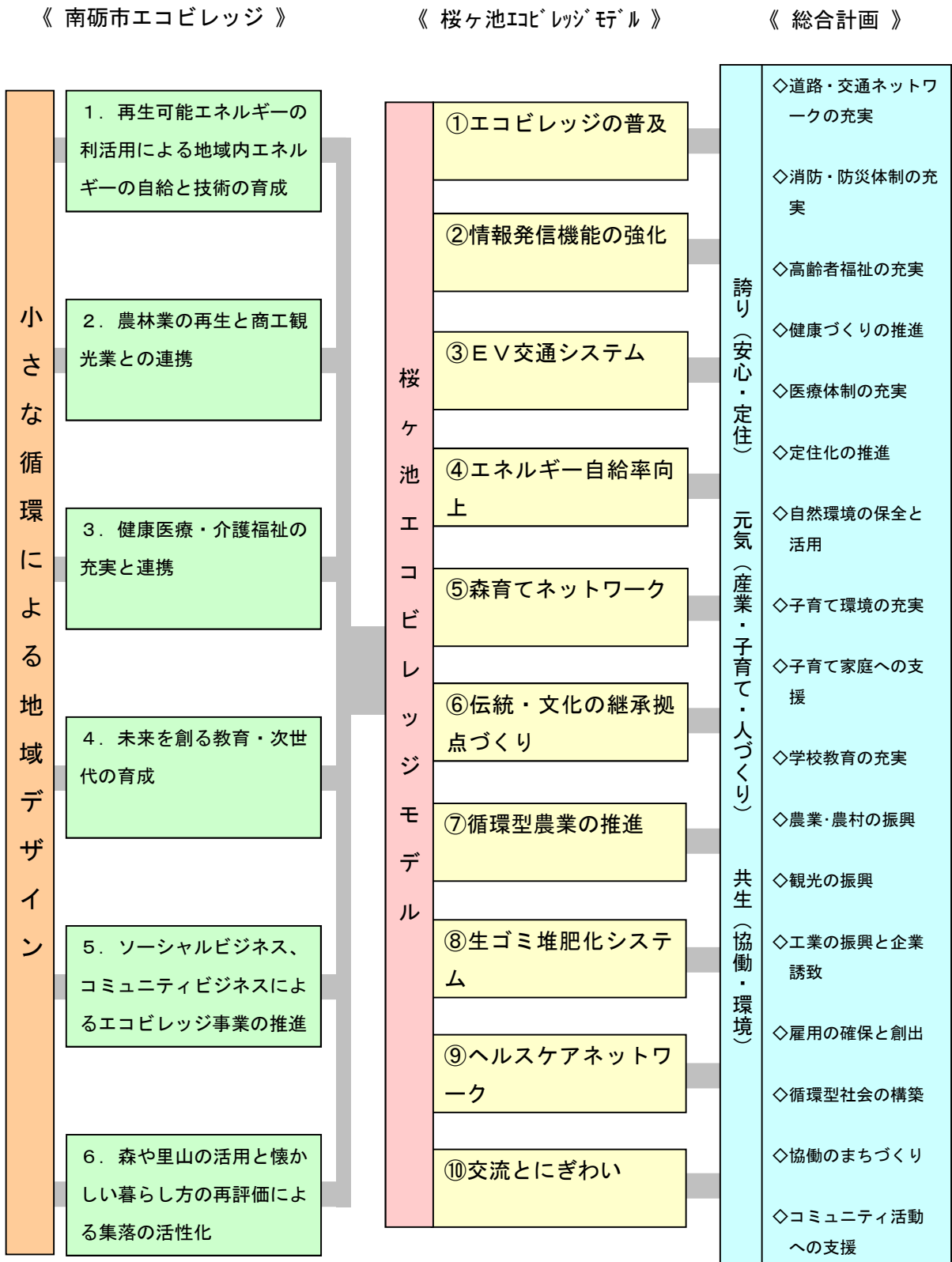
2. いのちの森創造ゾーン

3. 元気農業創造ゾーン

4. にぎわい創造ゾーン



【構想・モデルの体系】



【桜ヶ池エコビレッジモデルでの重点事業の概要】

桜ヶ池		自然エネルギー 創造ゾーン	いのちの森 創造ゾーン	元気農業 創造ゾーン	にぎわい 創造ゾーン
総合計画	誇り	③EV交通システム ・再生可能エネルギーも活用した環境負荷の低い交通システムの構築と人の交流を活性化します。	—	—	—
	元気	—	⑤森育てネットワーク ・里山や森を活用し、森を育てる知恵や技術を共有していくことで、森や里山の環境を守り育てます。	⑦循環型農業の推進 ・立野ヶ原の農産品や加工品のブランド化、食の提供、体験農園を使った食育などにより、魅力的な就農環境を形成します。	⑨ヘルスケアネットワーク ・桜ヶ池周辺の自然や施設を活かした健康・元気づくりに取り組みます。
		気	—	⑥伝統・文化の継承拠点づくり ・地域の知恵や技の継承拠点づくりを進め、南砺の技を再生、継承します。	⑧生ごみ堆肥化システム ・生ごみ堆肥化による循環型社会の推進を、生産者と消費者全体の取り組みとして進めていきます。
	共生	①エコビレッジの普及 ・自立循環型コミュニティのモデルとして発信していくとともに、地域内外と連携、連動、交流を進め、地域の誇りを醸成します。			
②情報発信機能の強化 ・ハイウェイオアシスとしての情報発信力を強化し、市内各地への誘導も行う情報発信の拠点づくりを行います。					
		④エネルギー自給率向上 ・再生可能エネルギーの導入によるエネルギーの自給率向上と必要な技術と人材の育成により、自立したコミュニティを形成します。	—	—	—

【事業の推進体制】

本構想は、市民と志民、事業者、行政の協働により、有識者や国、県とも連携しながら推進します。

■ 構想・モデルの推進体制イメージ ■

